ドルナスポーツ緊急声明「一方的に離脱できない」

青天のへきれき

スタッフに説明したと欧州メディア報じる

【バルセロナ（スペイン）遠藤智】スズキが今季限りでロードレース世界選手権（WGP）からの撤退を決めたようだ。2日のスペイン・ヘレスでの公式テスト中にライダーやスタッフに説明したとみられ、欧州メディアがこぞって報道。WGPを運営するドルナスポーツが3日、緊急声明を出し、「参戦契約の条件から、一方的に離脱を決めることはできないと、ファクトリーチームに伝えた」とくぎを刺す騒ぎになっている。

スズキは第6戦スペインGP（1日）を終え、チームランキング首位。選手やスタッフの来季活動を考え、このタイミングで通告したようだ。モトGPクラスの両レギュラー、ジョアン・ミルとアレックス・リンスは5月末が契約更改の期限で、同GP前には「来季の話し合いをスタートさせたい」と話していた。

スズキは2008年のリーマン・ショックを受け、12～14年にWGPを一時撤退。15年に復帰すると、創業100周年を迎えた20年、ミルがスズキとして00年のケニー・ロバーツJr以来、20年ぶりの最高峰クラス王者に輝いた。

実は、その直後から再撤退のうわさは絶えなかった。だが、昨年にはドルナとの参戦契約を26年まで5年間更新し、今季はドゥカティやホンダの監督を歴任したリビオ・スッポ新監督を招聘（しょうへい）。少なくとも現場では撤退への動きは一切見られなかっただけに、青天のへきれきだ。

近日中にも発表

背景には本社の強い意向があるとみられ、近日中にも正式発表される見込み。ミル&リンスというトップライダーのシートが空けば、各チームの来季に向けた態勢づくりにも大きな影響が及ぶことになる。

今年2月、タイトル奪還へスタートを切ったばかりだったが…（遠藤智撮影）

2020年のモトGP王者となり、喜ぶジョアン・ミル（スズキ提供）

契約は来季以降4年も残るが…

○…スズキの参戦契約は来季以降4年も残るため、撤退した際はその処理も注目される。カワサキは2008年のリーマン・ショックで、契約を1年残して撤退を決定。違約金を支払うより参戦を続けた方がコストが安いということで、09年は「ハヤテレーシング」の名前で走りきった。

★中上が転倒　モトGPクラスの公式テストが2日、スペイン・ヘレスで24台が参加して行われ、LCRホンダの中上貴晶は開始早々に転倒して走行を取りやめた。午後のフライトでバルセロナに戻って検査を受け、「痛めていた左膝を、また痛めてしまった。歩くのがつらい」と話した。テストはプラマックのヨハン・ザルコ（ドゥカティ）がトップタイムをマークした。

ポルシェ&アウディ26年F1参戦

フォルクスワーゲンCEO明言

参戦が本決まりになったようだ。フォルクスワーゲン（VW）グループのヘルベルト・ディース最高経営責任者（CEO）が2日、同社のユーチューブチャンネルで「われわれのプレミアムブランドがF1に参戦することを決定した。われわれは完全なサポートを受けている」と明言した。

ロイター通信によると、取締役会では意見が分かれたが、利益が支出を上回るとの理由から、最終的にF1参戦が決まったという。F1では過去10年間の大半で、VWと同じドイツ企業のメルセデスが圧倒的な強さを見せている。

ポルシェとアウディのF1参戦は以前からうわさされており、VWは先月、参戦計画の存在を認めていた。ディースCEOによると、参戦に向けた準備はアウディよりポルシェの方がより具体化しているという。アウディに関してはアストンマーティン、マクラーレン、ウィリアムズが提携もしくは買収の相手先として挙がり、ポルシェは一貫してレッドブルとの提携が語られている。

今日のTV
◆「SUPER GT 第2戦富士 決勝」（JSPORTS4 午後2～6時）

「みんなに感謝」阪口圧巻アタック2番手にコンマ3秒差!!

バンドウPP

圧巻のアタックを決めた阪口晴南（右から2人目）と、喜ぶ国本雄資（左から2人目）、坂東正敬監督㊥

昨季第7戦以来のPPを決めたバンドウのGRスープラ

スーパーGT 第2戦

予選　3日　富士スピードウェイ（静岡県）
ペン＝田村　尚之
カメラ＝多賀まりお

GT500クラスはバンドウの国本雄資（31）／阪口晴南（22）組（トヨタGRスープラ）が、圧巻のアタックでポールポジション（PP）を決めた。チームは昨季第7戦以来、今季から加入の阪口はauトムスから代役参戦した昨季開幕戦以来のPPとなった。2番手にKONDOの佐々木大樹（30）／平手晃平（36）組（日産Z）が食い込み、ヨコハマゴムがワンツー。GT300はR&Dスポーツの井口卓人（34）／山内英輝（33）組（スバルBRZ）が、開幕戦に続くPPを獲得した。

国本決勝へ自信「走りきれる」

目の覚めるようなアタックだった。Q2担当の晴南は終了間際に連続してタイムを更新。100分の1秒を争うGT500で、2番手をコンマ3秒もちぎってみせた。

クルマを降りると〝愛車〟に一礼し、なでてからガッツポーズ。「こんなに気持ち良くアタックできず、みんなに感謝したい。ヨコハマさんやTCD（トヨタ開発部門）、チームなど、たくさんの人が関わってくれたおかげです」。思い切り走れる環境を築いてくれた人たちに深く感謝した。

決勝は450キロの長丁場。気温や天候の微妙な変化により、履いているタイヤが本来の力を発揮できないケースも珍しくないが、タイヤ開発を担う国本は自信たっぷりだ。「練習走行でもテストでも長い距離を走ってきたタイヤを選んだ。しっかりとレースを走りきれると思う」

開幕戦はペースが上がらず1周遅れの13位に終わり、その後のメーカーテストで十分に対策を積んだ。今大会のタイヤもギリギリまで選ぶのを我慢。できるだけ天候に合い、かつ幅広く対応できる種類を持ち込んだという。

6年ぶりVへ

チームは昨季2度の2位を記録するも、2016年の第6戦以来、長らく勝利から遠ざかっている。国本は「長いレースでも予選順位は大切。作戦の幅も広くなる。状況に合った最適な（交換）タイヤや作戦を選びたい」と6年ぶりの勝利を見据えた。

圧巻デモ飛行

室屋

○…7月に英国で開幕する「エアレース世界選手権」に参戦する室屋義秀（レクサス　バスファインダー）が、昨季最終戦に続く〝SGT参戦〟で、デモンストレーションフライト＝写真＝を披露した。富士スピードウェイのコースに沿って飛んだり、タイム計測したりと、大迫力のパフォーマンスで観客を盛り上げた。

レイアウト☆小林　誠

◆スーパーGT第2戦　予選結果◆
（5月3日/富士/1周=4.563キロ/路面D）

順	車番	SW	ドライバー	チーム／マシン／タイヤ	タイム
			GT500		出走15台
1	19		国本雄資／阪口晴南	バンドウ／GRスープラ／Ⓨ	1:26:137
2	24		佐々木大樹／平手晃平	KONDO／日産Z／Ⓨ	26.449
3	3	12	千代勝正／高星明誠	NDDP／日産Z／Ⓜ	26.452
4	37		S・フェネストラズ／宮田莉朋	KeePerトムス／GRスープラ／Ⓑ	26.548
5	8	2	野尻智紀／福住仁嶺	ARTA／NSX／Ⓑ	26.569
6	38	16	立川祐路／石浦宏明	セルモ／GRスープラ／Ⓑ	27.053
7	100	30	山本尚貴／牧野任祐	クニミツ／NSX／Ⓑ	27.161
8	36	10	坪井　翔／G・アレジ	auトムス／GRスープラ／Ⓑ	27.273
			以上Q2進出		
9	14	42	大嶋和也／山下健太	ルーキー／GRスープラ／Ⓑ	1:26:810
10	12	8	平峰一貴／B・バゲット	インパル／日産Z／Ⓑ	26.989
11	23	22	松田次生／R・クインタレッリ	ニスモ／日産Z／Ⓜ	27.090
12	16		笹原右京／大湯都史樹	ムゲン／NSX／Ⓓ	28.305
13	64		伊沢拓也／大津弘樹	ナカジマ／NSX／Ⓓ	28.853
14	39	6	関口雄飛／中山雄一	サード／GRスープラ／Ⓑ	29.133
15	17	4	塚越広大／松下信治	リアル／NSX／Ⓑ	32.072
			GT300		出走28台
1	61	9	井口卓人／山内英輝	R&D／スバルBRZ／Ⓓ	1:34.888
2	10	15	富田竜一郎／大草りき／塩津佑介	ゲイナー／GT-R／Ⓓ	35.253
3	96		新田守男／高木真一	Kチューンズ／レクサスRC F／Ⓓ	35.273
4	34		柳田真孝／井出有治	プソウドラゴ／GT-R／Ⓓ	35.367
5	65	33	蒲生尚弥／篠原拓朗	レオン／メルセデスAMG／Ⓑ	35.430
6	11	3	安田裕信／石川京侍	ゲイナー／GT-R／Ⓓ	35.486
7	52		川合孝汰／＊菅波冬悟	埼玉トヨペット／GRスープラ／Ⓑ	35.542
8	88		小暮卓史／元嶋佑弥	JLOC／ランボルギーニ・ウラカン／Ⓨ	35.561
9	4	12	谷口信輝／片岡龍也	グッドスマイル／メルセデスAMG／Ⓨ	35.621
10	55		武藤英紀／木村偉織	ARTA／NSX／Ⓑ	35.941
14	56	60	藤波清斗／J・P・デオリベイラ	KONDO／GT-R／Ⓨ	36.097

【注】＊＝代役出場。SW＝サクセスウェイト（キロ）。タイヤはⒷ＝ブリヂストン、Ⓓ＝ダンロップ、Ⓜ＝ミシュラン、Ⓨ＝ヨコハマ

スバルPP

GT300

○…GT300ではスバルが2戦連続のPPを獲得。圧巻のアタックを決めたQ2担当の山内に、コンビを組む井口は「すごすぎ。宇宙人みたいだった」と目を丸くした。見据えるのは、トラブルや集団に埋もれて9位に終わった開幕戦の雪辱のみ。井口が「BOP（性能調整）でストレートスピードは苦しい状況。スタートからぶっちぎれば―」と大駆けを誓い、山内も「集団に埋もれると苦しいけど、トップから逃げ切ればなんとかなる」と口をそろえた。

2戦連続PPのスバルBRZ

三井デビュー戦V

FIA-F4

○…併催のFIA-F4開幕戦は大荒れの展開になった。スタート直後に1&3番グリッドの2台がコースを大きく外れ、トップに立った選手もピットスルーのペナルティー。レース後も、表彰台の真ん中に上った伊東黎明（OTG）が5秒加算のペナルティーを科されて3位に降格した。2位でチェッカーを受けた三井優介（HFDP）にデビュー戦勝利が転がり込んだが、「うれしいけど、実際はトップを走った伊東選手に負けているわけだから…」と複雑な表情だった。

▼今週のレース▼

海外		
レース名	開催地	日程
4輪		
F1第5戦 マイアミGP	マイアミ・インターナショナル・オートドローム	6~8
Wシリーズ開幕戦		
WEC第2戦	ベルギー・スパフランコルシャン	5~7

WEBサイトでもチェック！
「トーチュウF1EXPRESS」（f1express.cnc.ne.jp）